

2015.7.30

国立環境研究所福島支部準備室

災害環境研究セミナー

@国立環境研究所 地球温暖化棟交流会議室

飯舘村における 農地除染と農業再生の試み



溝口勝



東京大学大学院農学生命科学研究科教授
ふくしま再生の会理事

原発事故後、いかに行動したか

2011.3.11 東日本大震災

- (2011.3.15) 東大農業工学会議の仮設立
- (2011.5.30) 粘土表面の放射性セシウムセミナー
- (2011.6.7) 簡易空間線量計プロジェクト協力
- (2011.6.11) 土壌水分センサー講習会
- (2011.6.20) ボランティア未来農水と土サポート
- (2011.6.25) 飯舘村踏査
- (2011.7.10) 中山間地セミナー：飯舘村の『土』は今
- (2011.7.29) 震災復興への処方箋セミナー
ー農業工学でできることー
- (2011.8.30) ふくしま再生の会との出会い
- (2011.9.4) 東大農業工学会議現地調査

四季折々ー自然豊かな美しい村ー飯舘村



春



夏



秋



冬

飯舘村の現状



除染の工事現場（2014.10.7 二枚橋）

飯舘村の現状



除染終了した地区の“仮仮”置場（2014.10.7 須萱）

飯舘村の現状



住宅除染の工事現場（2014.10.4 佐須）

飯舘村の現状



いま科学技術が問われている

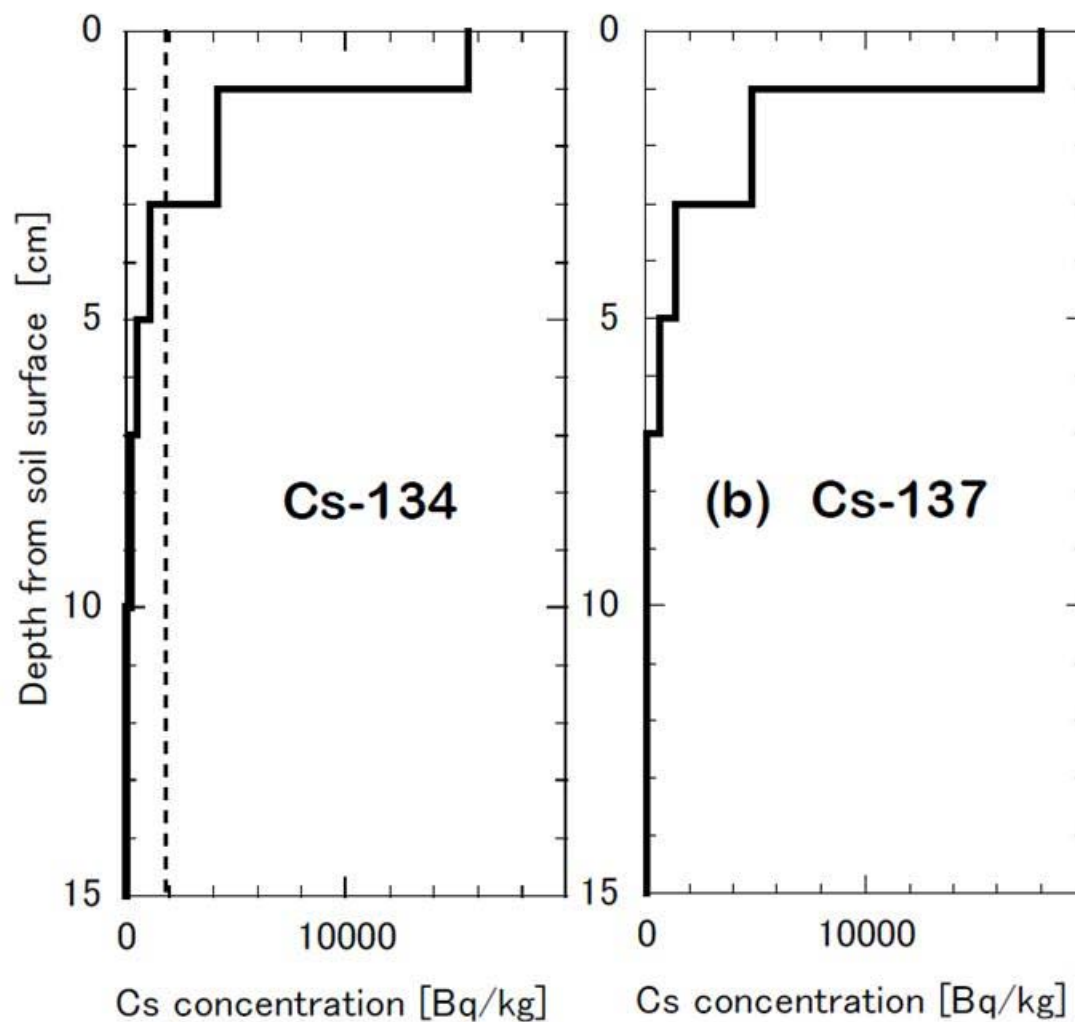
- 原発事故から4年
- 農学栄えて農業滅ぶ
－ 横井時敬
土に立つ者は倒れず、
土に生きる者は飢えず、
土を護る者は滅びず



- いま**大学**に何ができるのか？

放射性セシウムの濃度(2011.5.24)

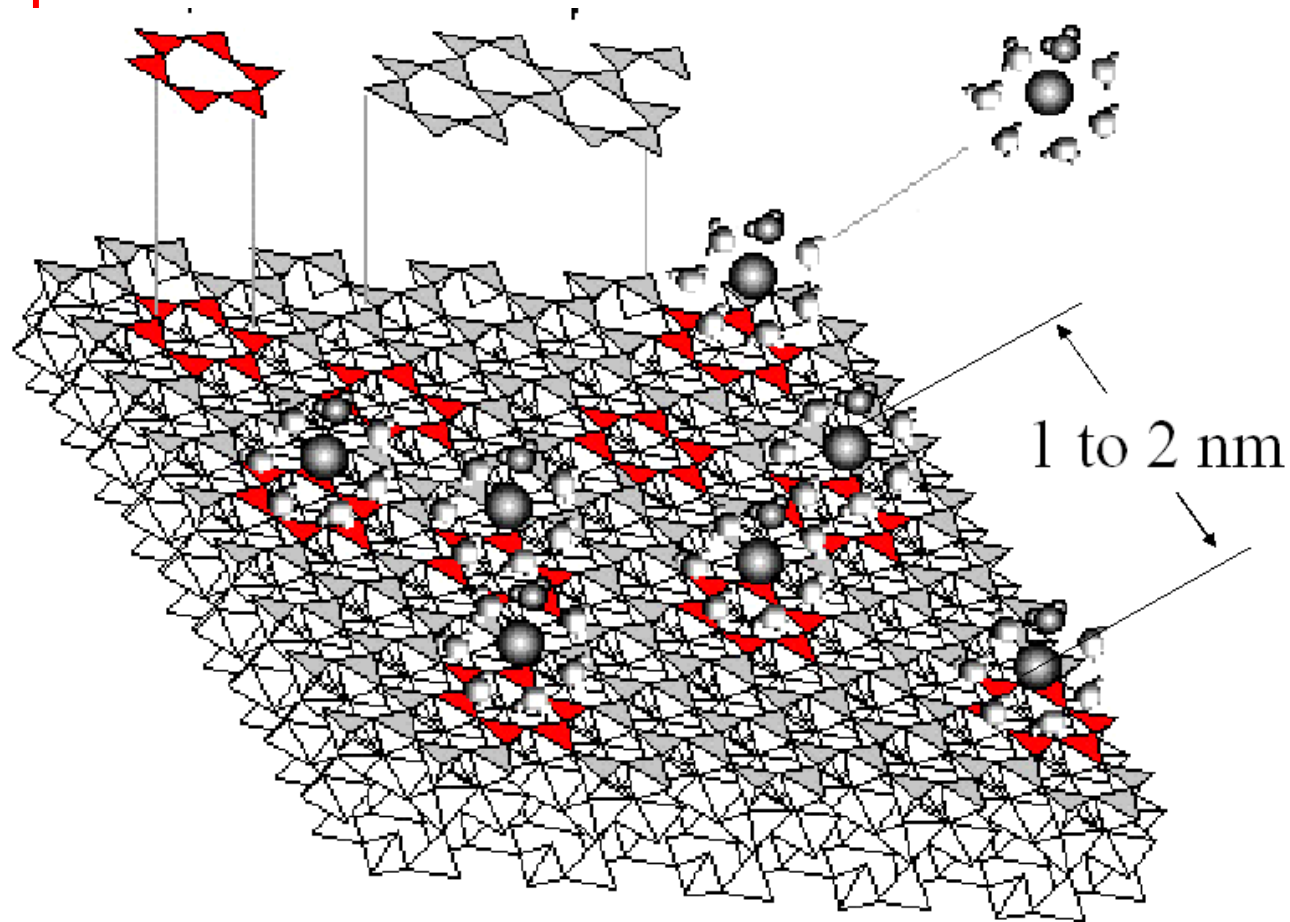
実線: 不耕起水田, 破線: 耕起水田



塩沢ら: 福島県の水田土壌における放射性セシウムの深度別濃度と移流速度,
RADIOISOTOPES誌, 8月号, 2011 より引用

放射性セシウムは粘土表面の穴に 落ちている！

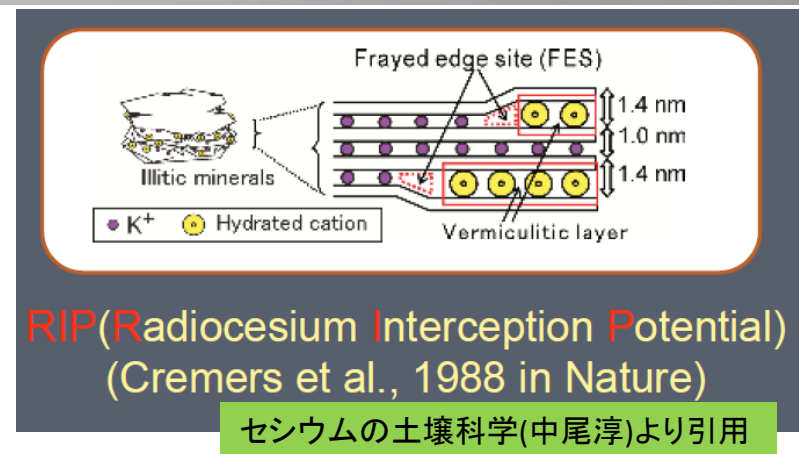
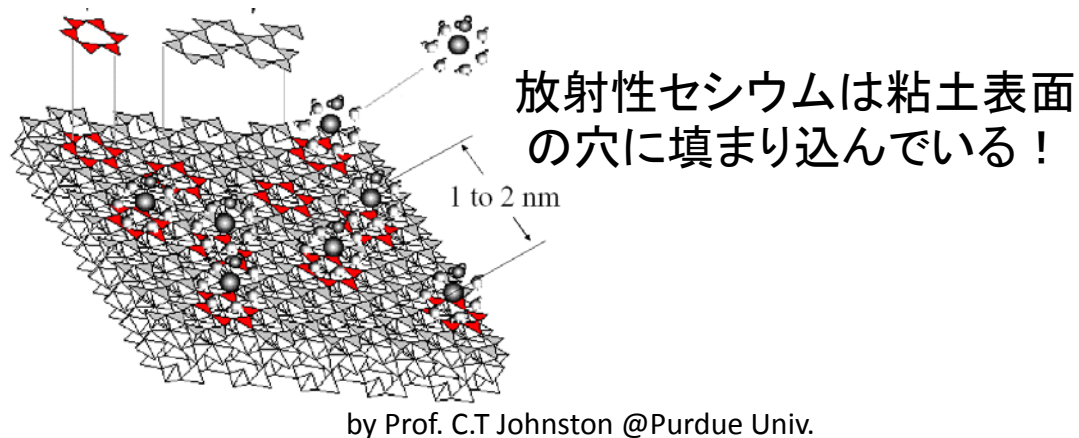
Hydrophilic Sites



「粘土表面の放射性セシウムの吸着
特性とその挙動」の資料より抜粋

by Prof. C.T Johnston @Purdue Univ.¹⁰

放射性セシウムはカリウムと入替わって 農地土壌中の粘土粒子に固定される





表土削り取り

農地の除染法

農林水産省

農地除染対策の技術書概要

【調査・設計編、施工編】

平成24年8月



水による土壌攪拌・除去



反転耕

中山間地の水田の現状

イノシシ



雑草



掘り返された農地



<http://www.tai.gu.ac.jp/mizo/edrp/fukushima/soil/PAWEE5131030.pdf>

この水田の除染をどうする？

農家自身でできる 農地除染法の開発

飯舘村小宮地区での田植え風景
2013.5.26



飯舘村小宮地区での稲刈風景
2013.10.6



飯舘村—NPO法人—大学の連携



農業委員会



若者の力、シニアの経験を世界の被災地「ふくしま」へ

ふくしま再生の会

福島復興農業工学会議



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

農学生命科学研究科
(農学部)

RI施設



サークル
までい



住民との信頼関係

板状で剥ぎ取られた凍土(2012年1月8日)

あれっ、先生じゃないですか！



[動画](#)

地表面からの放射線量(コリメータ付)が1.28 μ Sv/hから0.16 μ Sv/hに低下

凍る水田 除染一気

福島・飯舘

河北新報
(2012.1.17)

東京新聞
(2012.1.19)

菅野さんは「机上の発
想と違い、村の実情に合
って莫大（ばくだい）な
金も掛からない方法だ、

都市と地方の
認識のずれ

住民と研究者グループ実験

福島県飯舘村佐須地区で「帰村」に向けた山林除染などの活動に取り組む住民と研究者のグループが14日、セシウムを含む水田の表土を凍ったままはがし、埋める実験を行った。土中のセシウムの90％は地表5センチ以内にあるとされ、冬の寒さを生かして、一気に水田除染を行える合理的な方法とグループは話している。

このグループは、伊達市内に避難中の農業菅野宗夫さん（60）＝村農業委員会会長＝と、東京、つくば市などの研究者、医師らの「ふくしま再生の会」（150人）。

土壌学の専門家、溝口勝東京大学院農学生命科学研究科教授が実験を提案。冬は表土が凍る高冷地の村の環境と、セシウムの性質に着目した。実験では、菅野さんの自宅近くの田んぼを使い、深さ5、10センチまで凍った土をパワーショベルではがし、田の端に掘った同1・3メートルの穴に埋めた。

はがされた土は、長さ40センチほどの大ききの固まりになり、セシウムを封じ込めたまま埋めることなく処理できる。

仮置き場とする穴には、ダムの水漏れ防止工事などに用いられる特殊なマットを敷き、土を密

寒さ生かした「表土はぎ取り式」



田んぼの凍った土をはぎ取って埋める溝口教授らの実験

＝福島県飯舘村佐須地区

処理も効率的に

閉して覆土をする、マットは、一石二鳥の効果があ
トは土から地中への水の
浸透を防ぎ、また内部に
セシウムをよく吸収する
水溶液を入れたアンブル
ペントナイトという土の
層を挟んであることか
に水分だけが凍って、水
る。

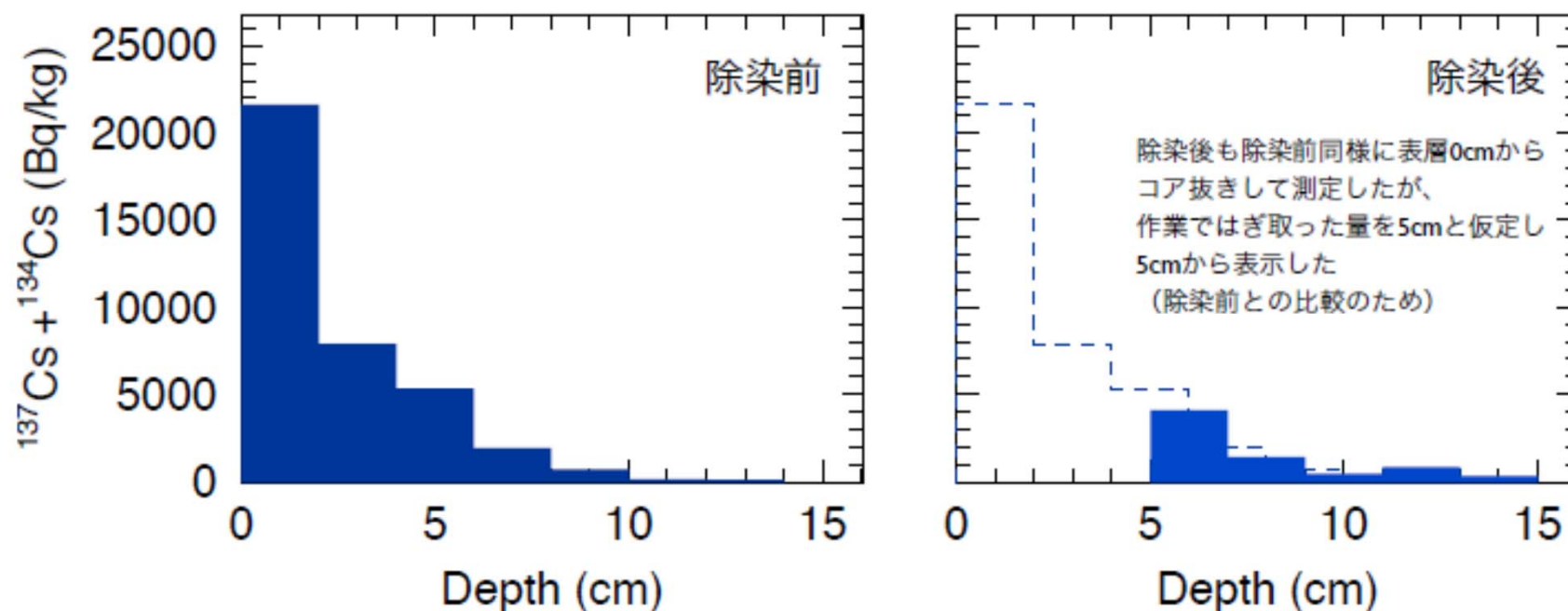
削除

の厚さを目視できる器具
も考案。「凍土が5センチ
の深さになった適期で、余
分な土を敷き、作業を行
え」と言う。

田車による除染実験(2012年4月)



田車代かき掃出し法の効果



までい工法

- 農水省が推奨する除染工法
 - ①表土剥ぎ取り、②代かき、③反転耕



- までい工法
 - 農地に穴を掘り、剥ぎ取った汚染表土を埋設
 - 表土剥ぎ取りと反転耕の組み合わせ工法
 - 反転耕より丁寧に上下の土を入れ替える

「までい(真手い)」＝飯舘村の方言で「手間ひまを惜しまず」、
「丁寧に」、「時間をかけて」、「心を込めて」という意味

泥水強制排水法 (小宮, 2013.5.18)



定点カメラ画像(2013.7.6)



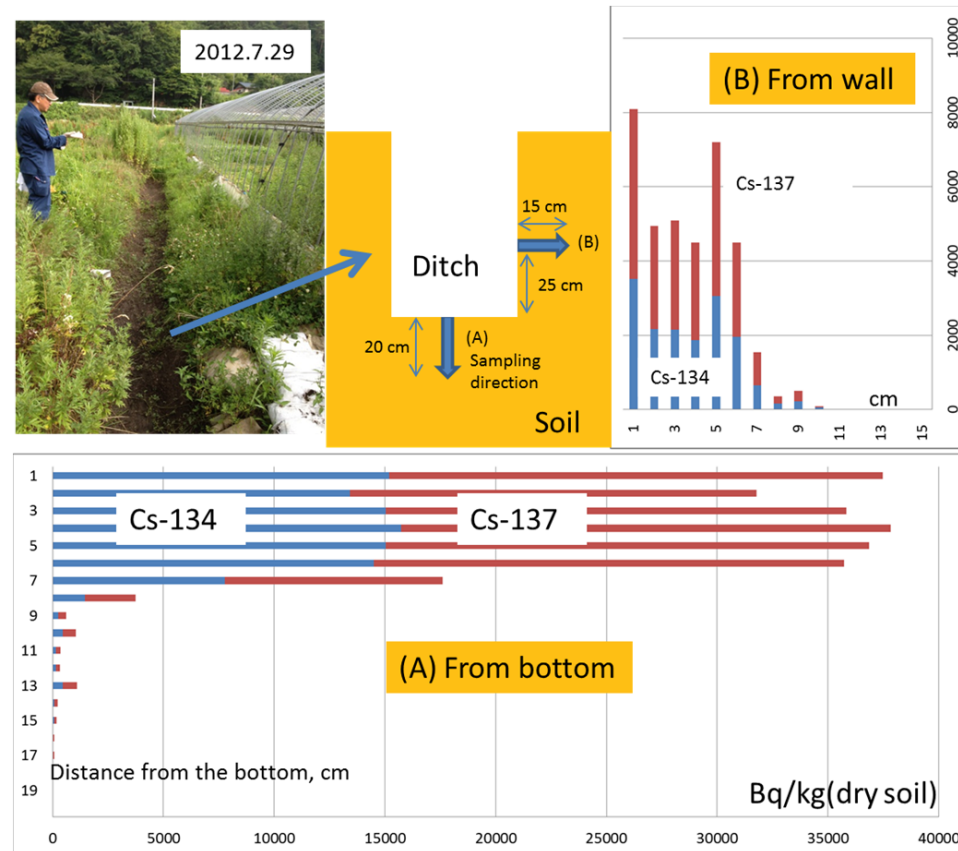
(動画)

土壌採集

正面(その1)、正面(その2)

側面

除染土壤の処理実験



洗い流した泥水を溝に蓄積しておき、干上がった後に溝の底と側面の土壌をサンプリングして深度別に放射能測定した結果。

セシウムは土の中に浸みこまない。

土の濾過機能



泥水は砂の層を通るだけで透明になって出てくる。放射性セシウムのほとんどは粘土粒子に強く吸着(固定)されているので、セシウムだけが水中に溶け出すことはない。

農地の下の土はこの実験の砂の層よりも厚い上に、砂よりも細かい粒子で構成されていることが多いので、放射性セシウムを固定した粘土はそれらの粒子の間に次々に捕捉される。

までい工法(実践)



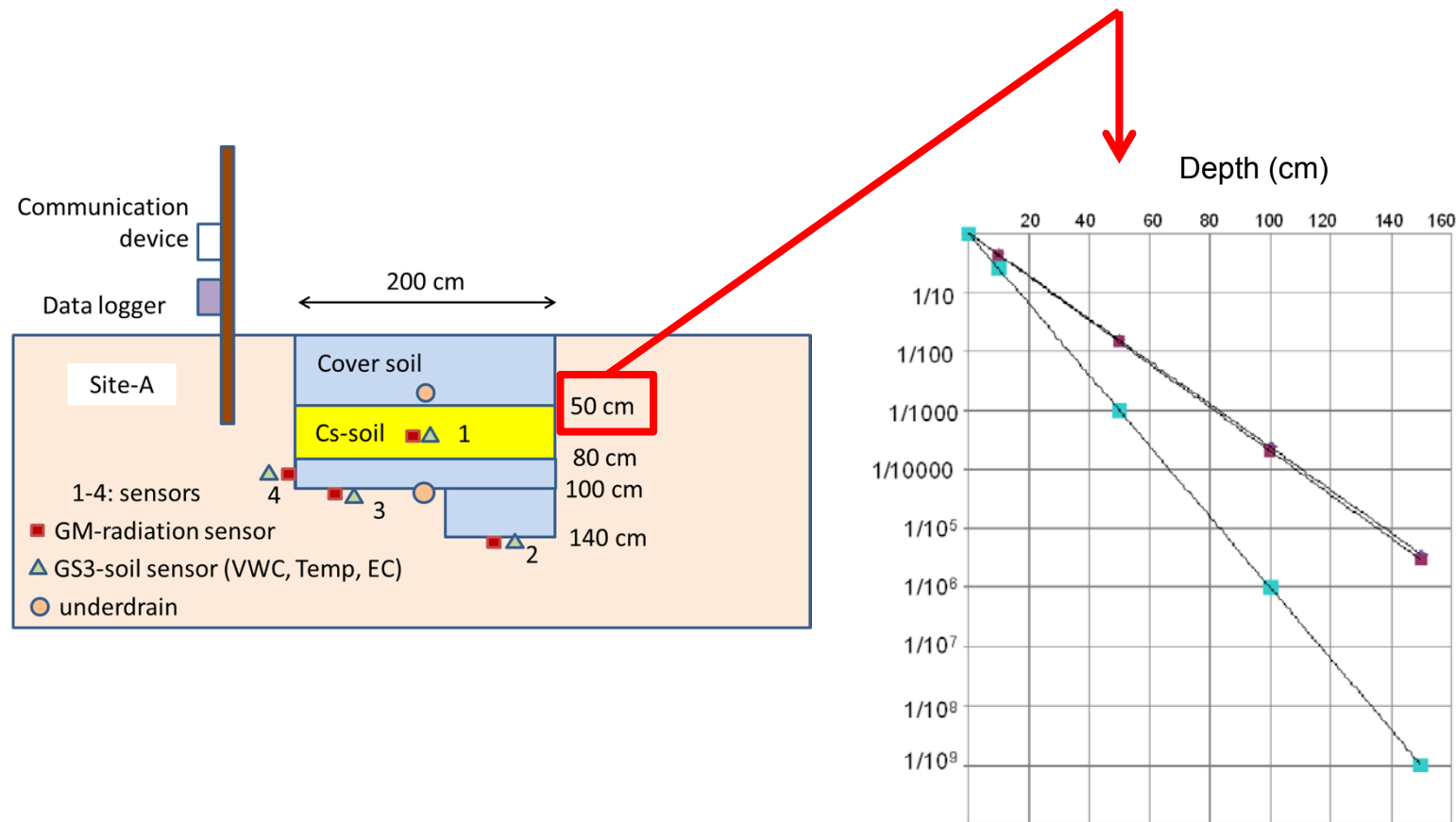
汚染土の埋設

よいとまけ(土の締固め)

2012.12.1

汚染土は素掘りの穴に埋めれば良い

50cmの深さに埋めれば放射線量は1/100 ~ 1/1000 になる

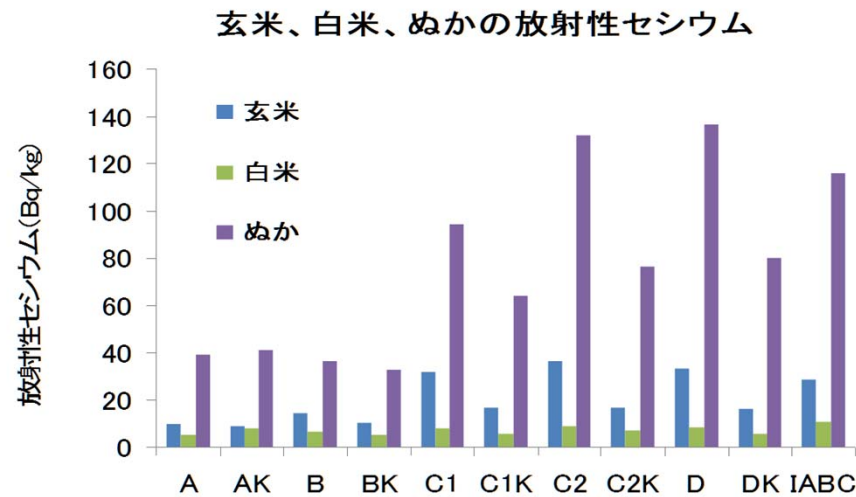


宮崎(2012)より引用

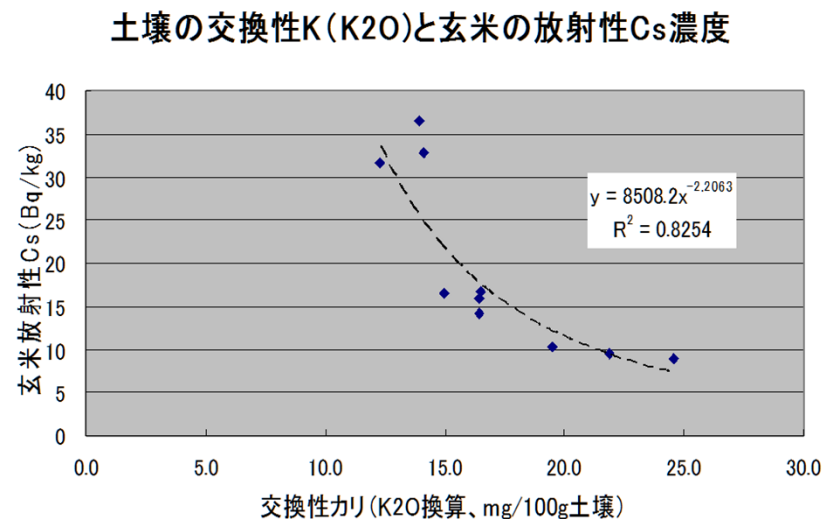
イネの作付実験 (H24～)



イネの栽培試験(H24年度)



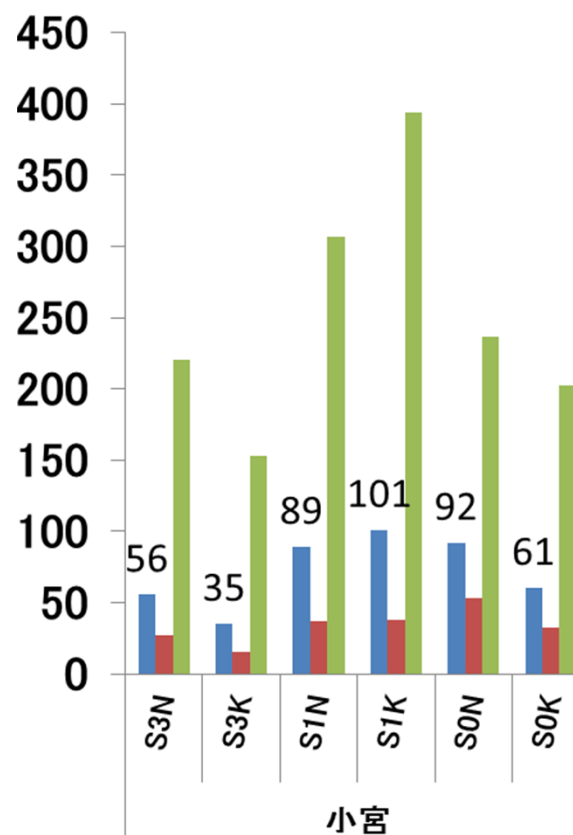
白米の放射性セシウム濃度は、すべて10Bq/kg以下



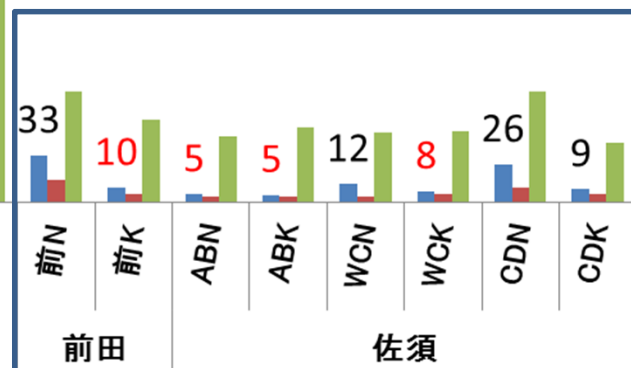
交換性カリ(K₂O)を20mg/100g乾燥土壌以上に保つ



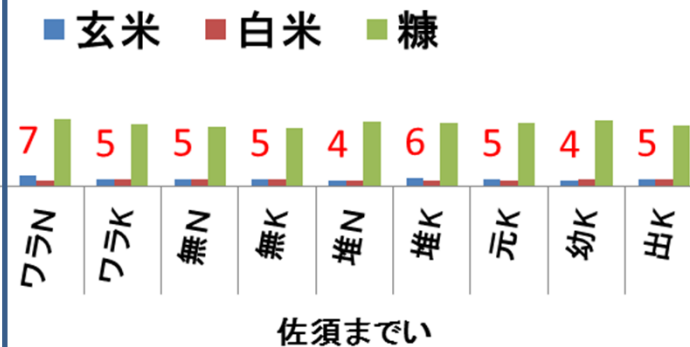
佐須 前田 (小宮)



2013年

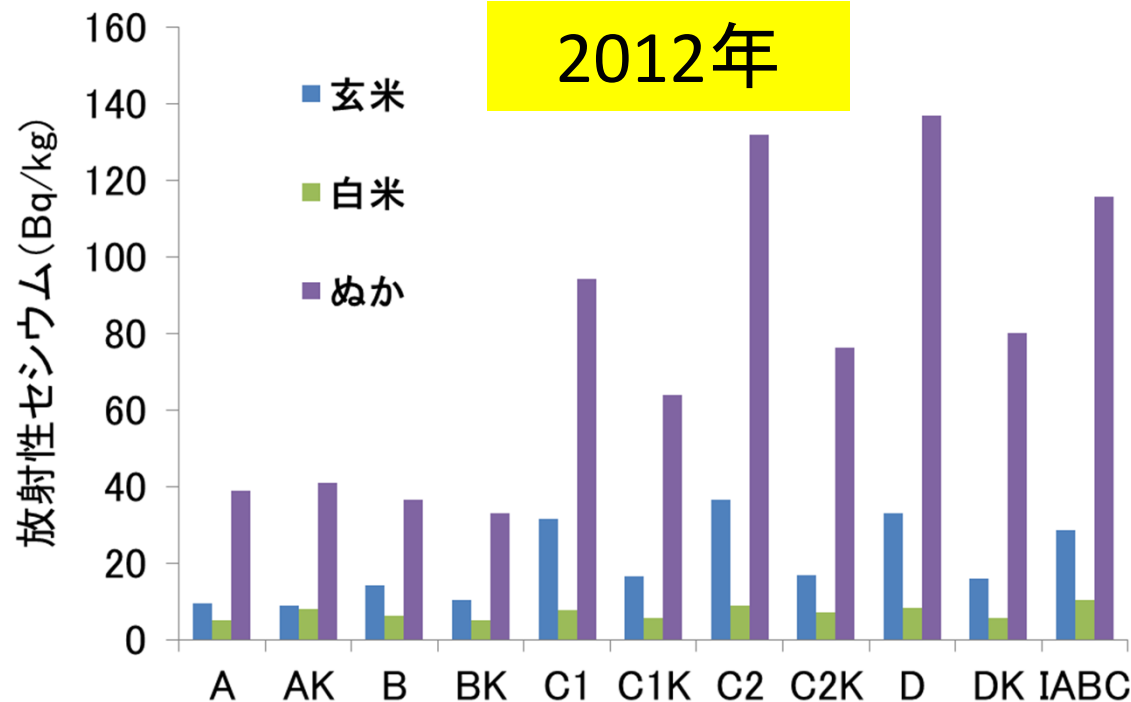


赤字は玄米のCs134、もしくは、Cs134,C137ともに検出限界値以下であることを示す。値としては検出限界値を代用した。



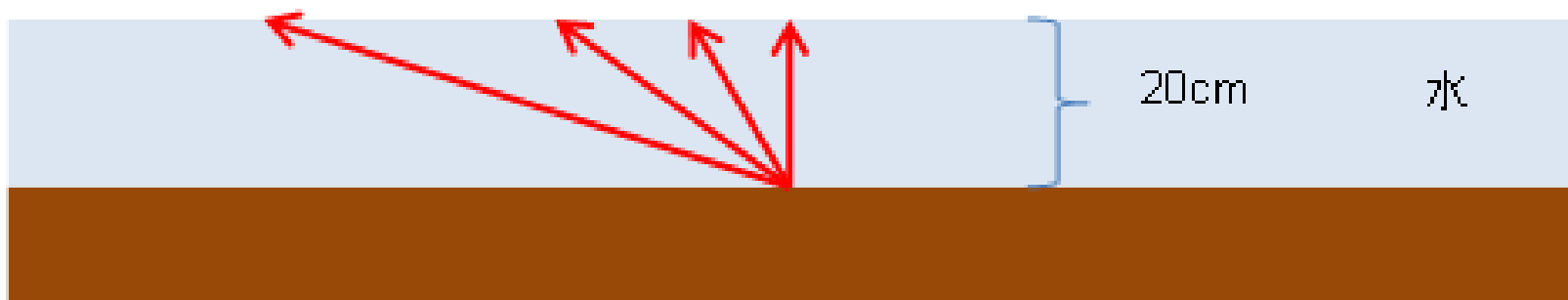
玄米、白米、ぬかの放射性セシウム

2012年



水田湛水による放射線遮蔽効果

東京大学 久保成隆(2012)



- 道路・民家へ達する放射線は、水田から低角度で放射される
- 水深が浅くとも、土壌表面から水面までの距離は、低角度の場合には長くなる
- 大きな遮蔽効果が期待できる



イノシシに荒らされた水田(2012年4月21日)



水田湛水 (2012年7月29日)

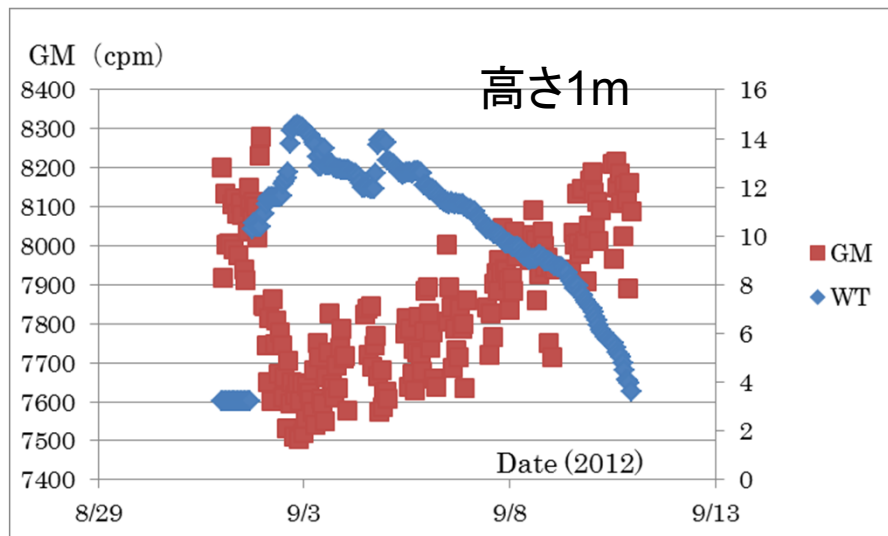


放射線計の設置(7月29日)

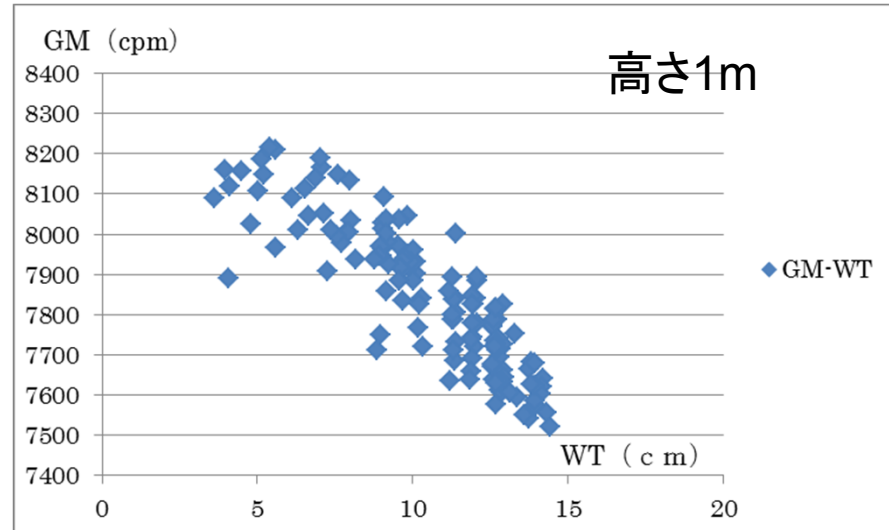


水田水位計

水田には水を貯めておくのが良い



放射線量と湛水深の時間変化



放射線量と湛水深の関係

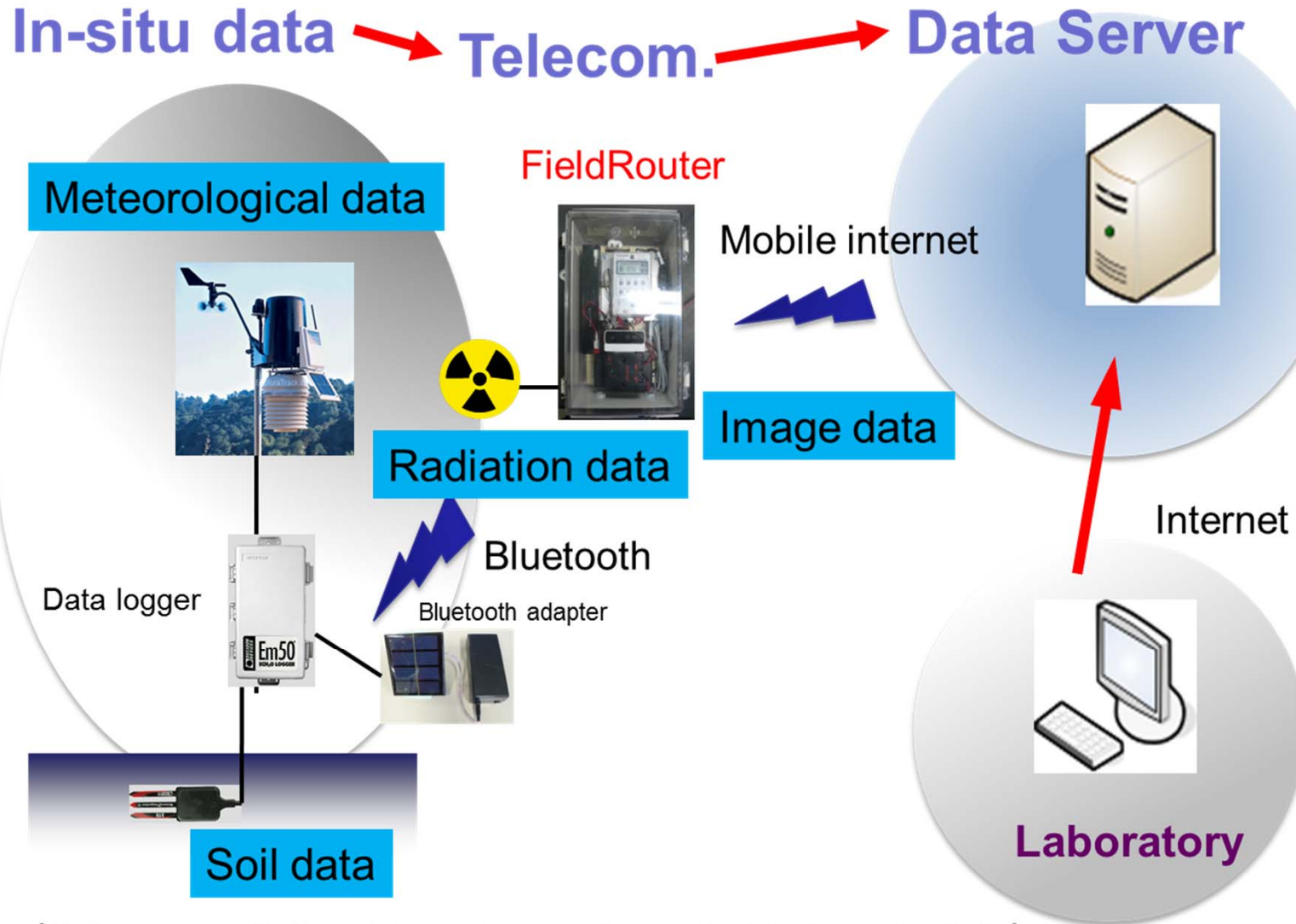
- 水を貯めておくだけで放射線減衰効果がある
- イネがセシウムを吸収しなければ、普通に水田稲作すれば良い
- 雑草や野生動物対策になる

フィールドモニタリングシステム Field Monitoring System (FMS)

- 農地におけるモニタリング
 - 気象(気温, 降水量, 日射量, 風速, など)
 - 土壌(水分, 温度, 養分)
 - 作物(成長量, 色)
 - 環境(放射線量?)
- 農地は都会にあるのではない！
 - 電源なし, WiFiなし
- 農地では有線を使わないのが望ましい
 - 草刈り鎌やトラクタによる切断
 - 動物による切断



The FMS with a radiation sensor

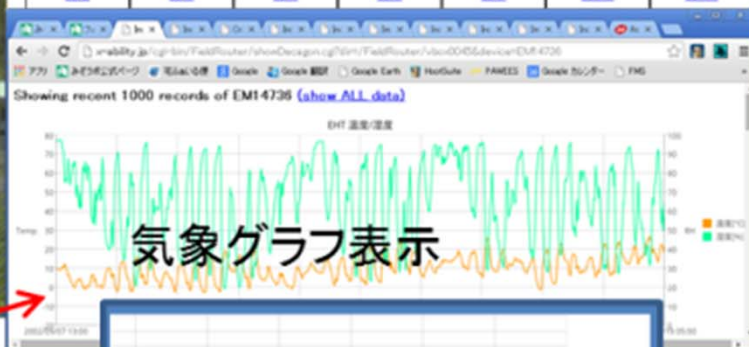


(Soil sensor : Soil moisture, temperature, electrical conductivity)

飯舘村の環境モニタリング

[Images](#)

[image0]2014/05/19 12:24 (225.0K) [calendar](#) / [movie](#)

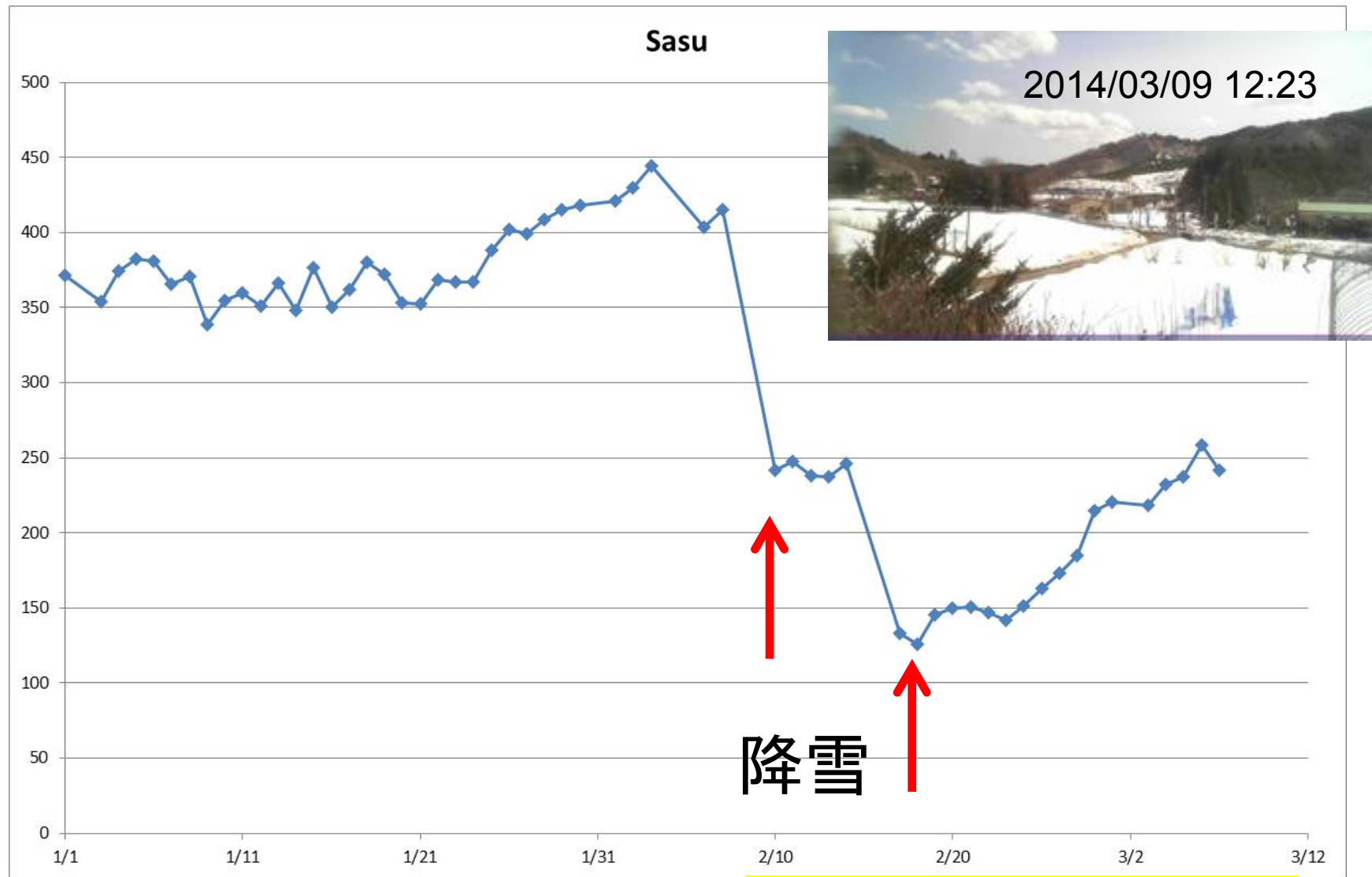


放射線量グラフ表示

[Data](#)

EM14736	2014/05/16 12:23 battery:82 logger time:2002-10-20 1:32:50 +36	CSV	2014 ▼	merge
FriskCounter	2014/05/19 12:33 battery: logger time:2014-05-19 03:13	CSV	2014 ▼	merge
SimpleCounter	2012/09/17 12:18 battery: logger time:2012-09-17 12:12	CSV	2012 ▼	merge

雪による空間線量の低下

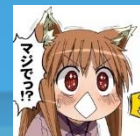


土壤くん

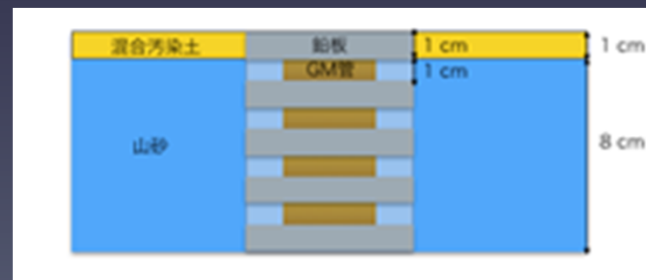
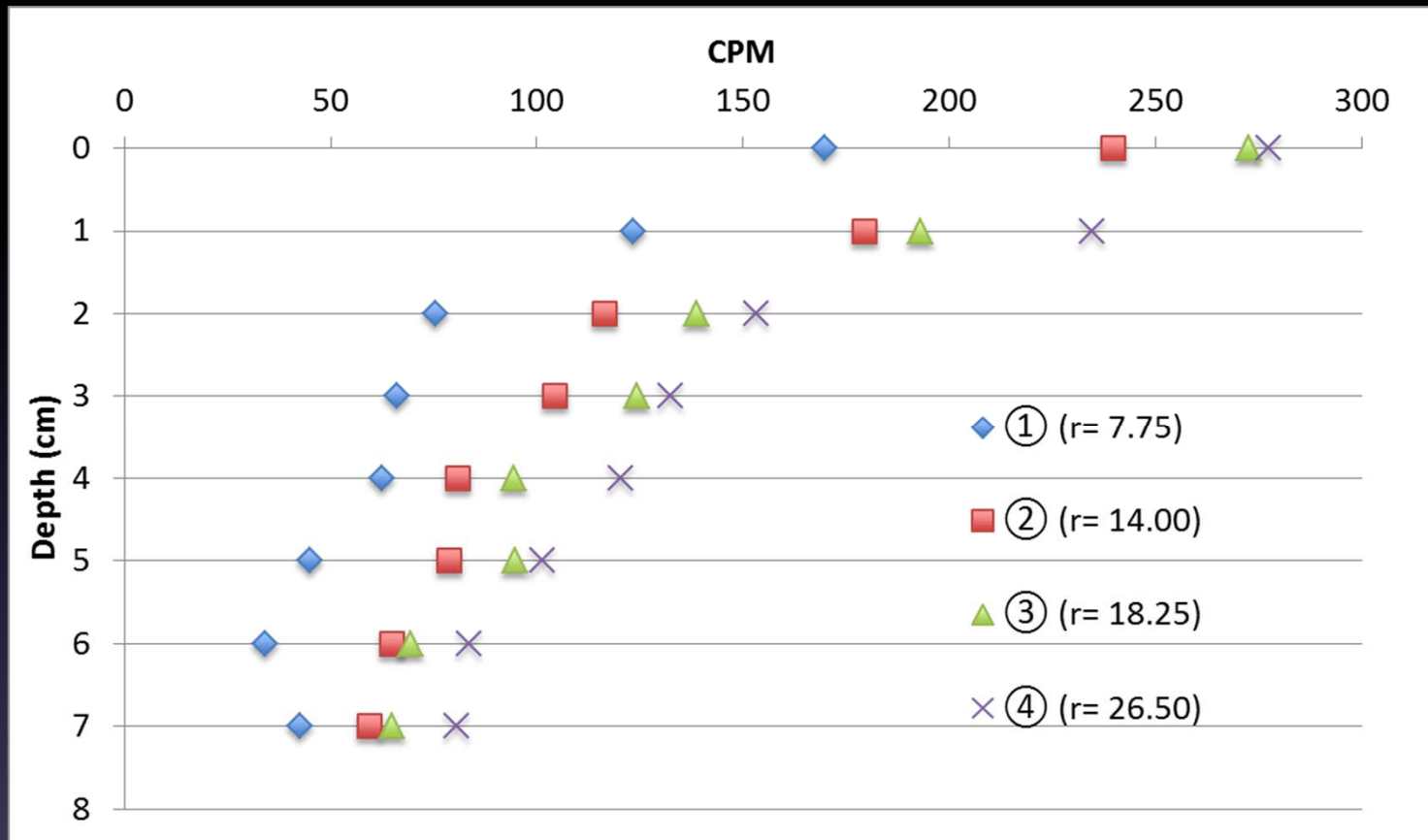
Measurement Time: 3 min



GM tube: LND712
(LND, Inc.)



地表1cm汚染土壌の影響



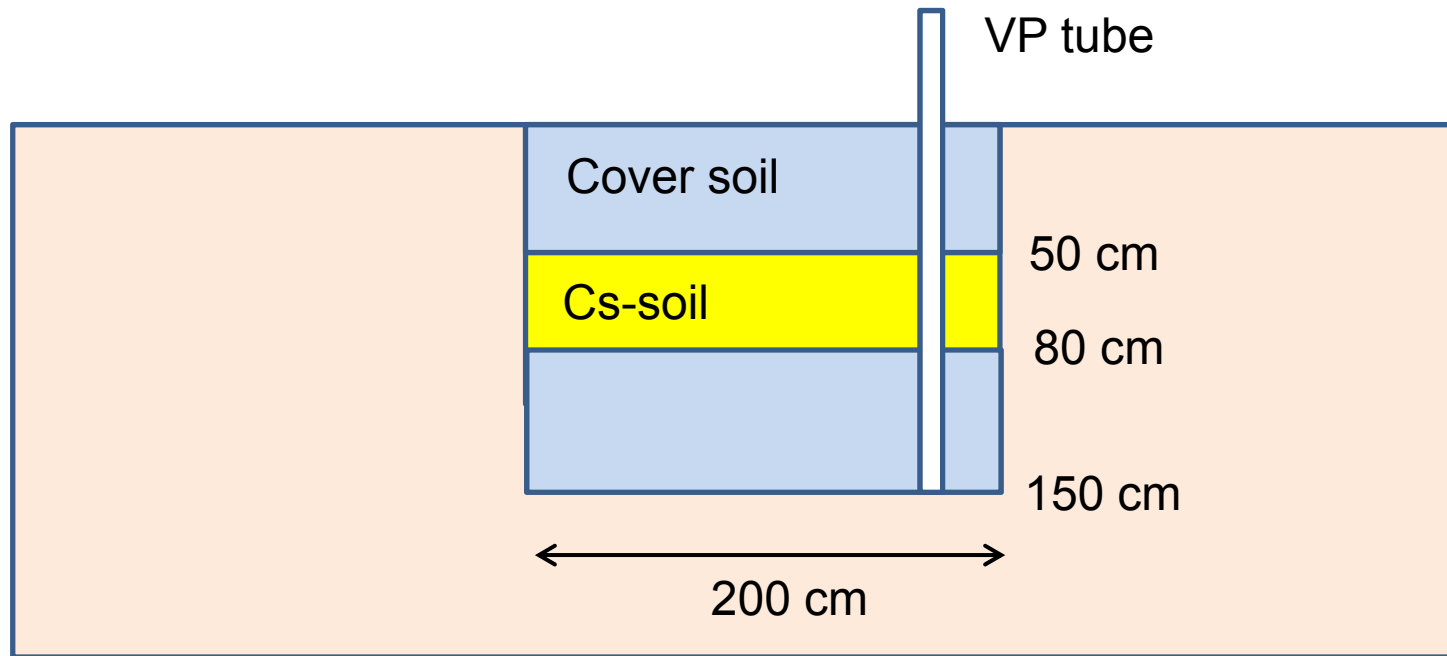
混合汚染土 (151,471 Bq kg⁻¹)
山砂 (842 Bq kg⁻¹)

長尺くん

- 土壌くんの兄弟
 - 観測孔内の放射線を簡便に測定する測定器
- 土壌くん
 - GM管を1cmの鉛板で挟んで水平に4本配置
 - 深さ8cmの土壌放射線量を2cm間隔で測定
- 長尺くん
 - GM管を鉛板なしで鉛直に10本配置
 - 深さ1mの放射線量を10cm間隔で測定



配置図



- ・帯状(幅2m,長さ16m,深さ50-80cm)に汚染表土を埋設(2012年12月)
- ・埋設汚染土の周囲に放射線・地下水位・土壌センサを埋設

土層内放射線量のシミュレーション

$$I(h) = \int_a^b \frac{pe^{-\mu\sqrt{x^2+(y-h)^2}}}{4\pi\{x^2 + (y-h)^2\}} 2\pi x dx$$

x : 地表面上のパイプ中心から水平向きの半径(cm)

y : 鉛直上向きの距離(cm)

h : パイプ中心にある GM管の位置(cm)

μ : 放射線の減衰係数

(土壌: 50cmで1/100, 空気: 0と仮定)

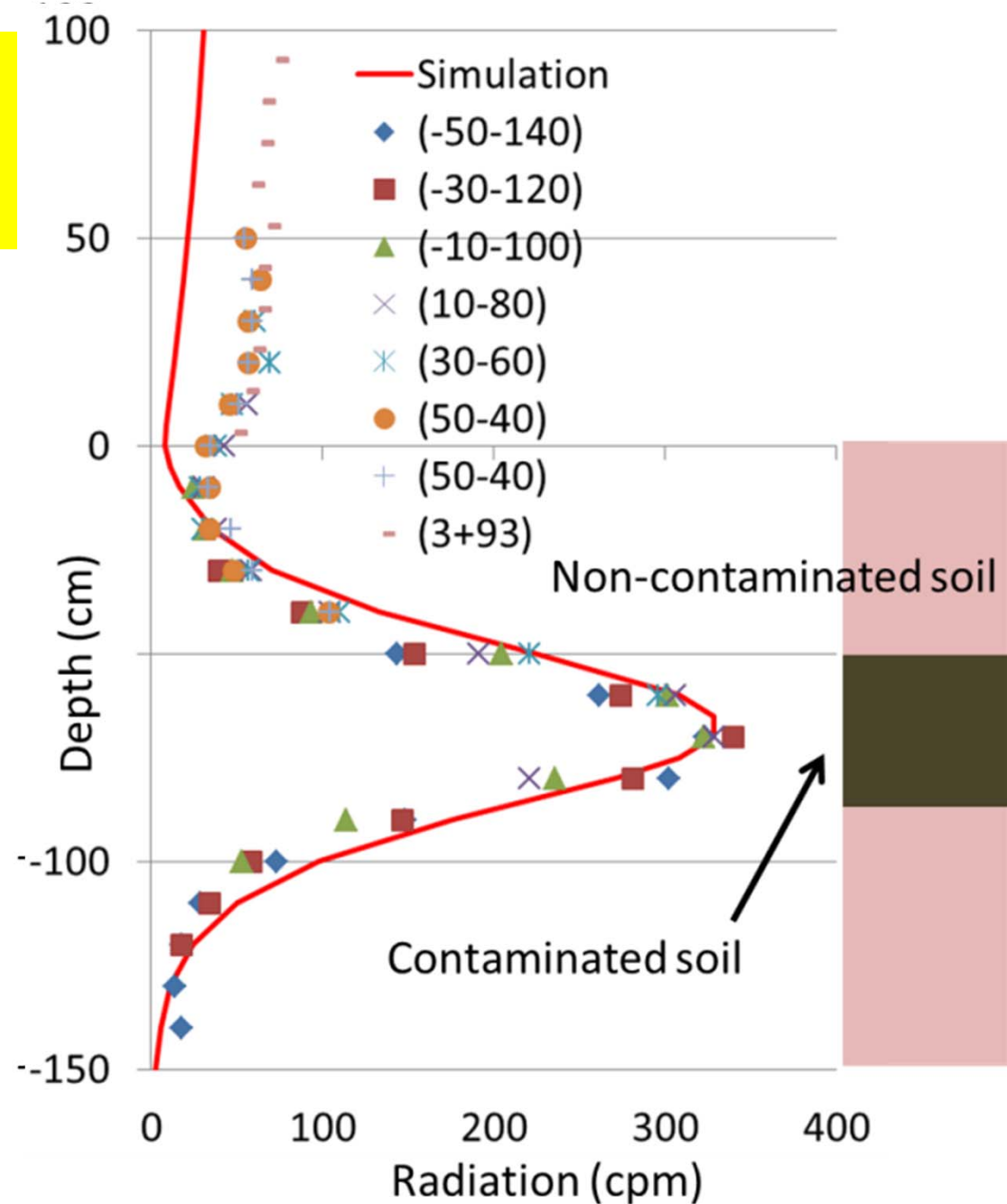
p : 汚染土の濃度

a : パイプの半径(5cm)

b : 埋設汚染土の半径(cm)

水田土層内の放射線量

- 埋設汚染土層の下の方(130cm付近)の方が表土層よりも小さい
 - 放射性Csの移動がない
- 表土層よりも空気中の上方の方が大きい
 - 水田周辺の山など影響



大学にできること 大学がすべきこと

- 研究
 - 過去の文献に基づく情報整理
 - 正しいデータによる現状分析
 - 現場のニーズに適う技術開発
- 人材育成
 - アウトリーチ活動
- 講義
 - 学生に現状を正しく伝え、一緒に考える
 - 現場をしっかりと見せる

学生の現場見学会

～飯館の若さがここにある～

飯館村は震災前どのような場所で、震災を受けてどう変わったか。
飯館を今後どのような村にしたいか。
本シンポジウムは、飯館出身の学生が思いを発信して、
会場の皆さんと一緒に話し合う企画です。
飯館村の話なき、
アイデアを共有してくれる人の参加をお待ちしています。

日時：5月19日(日) 13:00～15:00
場所：東京大学農学部弥生講堂アネックス

＜プログラム＞
13:00～13:20
第1部：震災前後の生活(高橋さん)
13:20～13:40
第2部：飯館村の村長になったら何をしたいか(佐藤さん)
14:00～15:00
佐藤さんと高橋さんと一緒に、これからの飯館を考える
(ワールドカフェ形式)
◆会場では関係者の持ち寄りによる写真展も行っております。

協力：農学生命科学研究インキュベータ機構「アグリコクーン」
運営：農学部サークル「までい」学生メンバー
(連絡先：渡辺 <rdotwatanabe@gmail.com>)
・facebook ページ：
<http://www.facebook.com/events/182989651850480/>
・Ustream 配信：<http://www.ustream.tv/channel/14127761>

「これからの飯館を考える 飯館出身の20歳×東京の学生」

東大五月祭対話集会
(2013.5.19)



東大農学院生の調査 (2013.2.6)



東大農学部の学生見学会(2012.10.6)

飯舘村関連の講義



<http://www.iai.ga.a.u-tokyo.ac.jp/mizo/edrp/fukushima/litate-lec14.html>

溝口 勝（東京大学 大学院農学生命科学研究科 国際情報農学研究室）

講義リスト

- [東大1年生飯舘村現地見学会 \(2014.9.6\)](#)
 - [小学生のための土壌科学「飯舘村の土」 \(2014.8.20\)](#)
 - [食料流通工学\(2014.7.22\)\(レポート課題 学生レポート\)](#)
 - [駒場：農業環境と食の安全を対象とした放射性物質動態学\(2014.7.15\)\(学生レポート\)](#)
 - [農学における情報利用ゼミナール演習](#)
 - [地域社会と専門家の連携－大学の役割\(農業環境における放射線影響ゼミナール\)](#)
 - [総合科目：食をめぐる水と土の環境科学\(2014.6.22\)\(学生の感想\)](#)
-

資料

1. [土壌物理学者が仕掛ける農業復興－農民による農民のための農地除染 \(コロンブス2014年3月号\)](#)
2. [福島復興農業工学会議\(土壌除染の農業工学的研究\)活動報告 \(東京大学ホームページ\)](#)
3. [放射性物質問題－土壌物理に求められること \(土壌の物理性－土壌物理学会誌\)](#)
4. [飯舘村再生を目指す協働の成り立ち](#)

リアクションペーパー課題

- 講義資料を読み、かつ講義を聴いた上で、「あなた自身ができるような被災地の農業再生について」考えを述べよ。A4で1枚から2枚程度にまとめて提出すること。
- →締め切り: 7/29(火)、12時。

法学部生のレポート

講義を聴いて思ったことを一言でまとめるとすれば、「除染にかけている余計なコストを、荒れた農地の再生やともとも農地の維持・保全をすることで住まないものだろうか」ということである。東日本大震災の後、メディアが放射線の影響、恐ろしい、それについて不安を述べる人々の姿を誇張して、またはその一面だけに注目して報道していることも多いだろう。私は法学部が他学部聴講していることもあり、将来農業に関する研究をやることや農業自体に関わることはないだろうから、被災地の農業再生のために技術的な貢献もすることは難しいと思う。ただ、放射線についての正しい知見を持ち、できればそれを広めていくことについては、法学部で論理力を鍛えて、人を説得できる力を身につけることで可能にしたい。それが間接的にはあるが、被災地に行ける正しいコストのかけ方につながり、いいては被災地の農業再生につながるもの考える。

ただ、残念ながら今の私には発言しても人が振り返って耳を傾けてくれるほどの地位・立場が無い。今の私にできる一番の近道は、東大法学部に求めぬ勉強を堅定にこなし、日々精進いつ
そのような地位に辿りつめるよう一歩一歩進んでいくことなのかもしれない。

東大1年生のレポート

僕は福島には何度か行ったことはあったのですが、理系の研究をしているところを拝見したのは初めてだったので単純に楽しかったです。農学部に進む訳ではないので自分の将来像が見えたとまでは言いませんが、将来について考えるきっかけ、参考になりました。

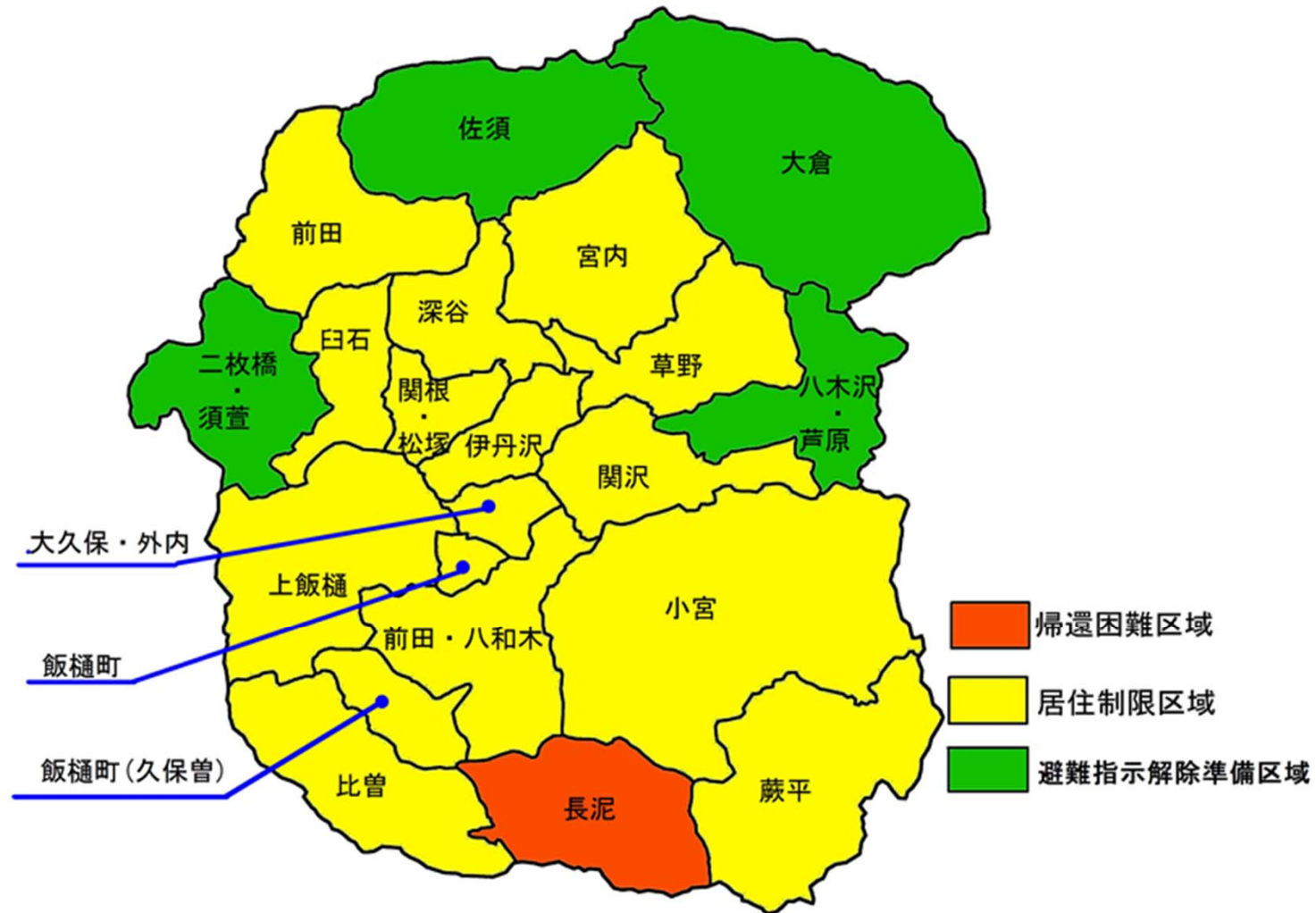
僕はこれまで何度か東北を訪れており、飯舘村もバスで通過したことはあって、その際にフレコンバッグの説明なども聞いていた。しかし先日 T 君が溝口先生の案内で飯舘村を訪ねた経験を聞き、村で始まっている新たな試みに興味を持っていたので、今回の機会はとてもありがたかった。現地では汚染や除染に関する様々な状況を教えていただき、試しに穴も掘らせてもらった。僕は文科一類でおそらく進振りでは法学部に進むが、このままでは被災地の村で実際に穴を掘って物を運ぶ、などといった作業をすることは一生ないと思う。そして、現場を見たことがない学生が将来的に日本の政治を動かすようになっていくという現状は、日本の未来にとってプラスにはならないであろう。T 君は、飯舘村は理系の学生が研究の最前線を見られる場だと感じたそうだが、文系の学生にとっても理系の現場を見られる場として大きな役割を持つと思った。文系の学生が溝口先生を手伝って体を動かすことは決して無意味なことではないと思うし、僕も機会があれば参加してみたい。

小学生のための土壌科学「飯舘村の土」(2014.8.20)



<http://youtu.be/TLTQswp6Yic>

飯舘村の現状





除染終了した地区の“仮仮”置場（2014.10.7 須萱）

【除染後の農地】



飯舘村松塚地区（2015年3月）



ふくしま再生の会による除染完了農地の土壌サンプリング（2014.8.30 須萱）

除染と客土

キーワードを入力

ニュース

トップ

速報

写真

映像

雑誌

個人

Buzz

意識調査

ランキング

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT・科学

ライフ

地域

国内

政治

社会

人

＜福島原発事故＞田んぼ除染で耕土喪失 福島・飯館

河北新報 10月14日(火)11時14分配信

ツイート

1

おすすめ

0



除染された田んぼで採られた土。
写真のサンプルは、山砂の厚さが
約15センチ（容器の上半分）＝8
月30日、福島県飯館村須賀

福島第1原発事故後の除染作業が進む福島県飯館村で、環境省の委託で村が除染工事を発注した田んぼが、最大で厚さ15センチもの山砂で覆土されていたことが、NPOの検証で分かった。環境省の農地の汚染土はぎ取りの基準は「約5センチ」だが、約3倍の耕土が失われたことになる。村内での農地除染は今後本格化するが、再生の具体策はまだない。

調査に参加した溝口勝東大大学院教授（土壌物理学）は「山砂に埋もれた田んぼも、改良技術と時間があれば再生は可能だ。心配は農家側の意欲。応援する仕組みをどう作れるかだ」と話す。

農家「復田できるのか」

除染後の農業をどう考えるか

- 客土後の農地再生
 - 土地改良後に農地の肥沃度が失われるのは当然
 - でも数年で改良技術によって農地にしてきた
 - 問題は農家のやる気
- 担い手は日本農業の共通問題
 - やる気のある農家にとってはこれからの農業は面白い
 - 農村の古いしがらみが新しい農業の芽を阻んできた？
 - しがらみが原発事故でリセットされたと考えれば新天地
 - 新しい日本型農業を飯舘から始めるチャンス
- 現状では戻ってくる農家は多くない？
 - 何らかの農業を応援する仕組みを作る必要がある
 - 農地集積バンク制度を利用しながら企業や新規農業者を呼び込む
 - 新しい農業教育コースを高校・大学に作り、全国から数名だけ推薦入学⁵⁴



農業再生に向けて—新たな挑戦—

河北新報
2015年4月17日

2015年(平成27年)4月17日(金曜日)

農地再生とともに一歩

飯館・関根松塚地区 NPO 東大 協定締結へ

東京電力福島第1原発事故で住民が避難中の福島県飯館村関根松塚地区と、村の復興を支援するNPO法人、東京大の農業工学研究者の組織の3者が近く、除染後の農地利用などで連携・協力する協定を結ぶ。水田の土壌を調べる活動が既に始まっており「除染後の現状を知ること、地区再生への一歩を踏み出した」と住民は期待する。

復興に向けて連携・協力の協定を結ぶのは、NPO法人ふくしま再生の会(田尾陽一理事長)と東京大福島復興農業工学研究会(代表・溝口勝岡大教授)。2011年から飯館村佐須地区などの住民と協働し、農地と生業の再生実験に取り組んできた。

協定案は①具体的な「地域再生計画」づくりの表現のための調査や試験②産業興しや人材育成などでの協力を掲げ、関根松塚地区も近く役員会で内容を検討する。

関根松塚地区(高橋文男区長・43世帯)では農地除染がほぼ終わった。地区は「帰村後」の意向調査を行い、畜産や施設園芸の希望が半数に上り、住民ぐるみで土地利用を話し合ってきた。

除染後 利用法探る

専門家の助力で地力回復

前区長で復興部長の山田猛史さん(66)は村農業委員は福島市内で和牛繁殖を再開し「除染後の水田を広い放牧地にしたい」と提案しており、本紙「その先へ」で先月紹介した。

再生の会と東大のメンバーは先月から山田さんの水田の土壌調査に入り、12日に開かれた住民の集会で除染効果の現状を報告した。

その結果、表土はき取りと客土がされた深さ7センチ前後を境に、深い層に放射性物質濃度が高い部分が残ったり、逆に表層の濃度が高かったりと、測定地点によってばらつきがみられた。

溝口教授(土壌物理学)は「表層で濃度が高い地点は、除染土をいっただん集めた場所ではないか。代かきなどで均等化すれば問題ない」と分析。その実証と地力の回復、適作の試験などにことしから取り組み「各分野の専門家を参加させたい」と協定へ期待を語った。

山田さんは「第三者のデータから信頼できる。ありのままの現状を住民が知ることを土台に、牧草はどんな種類がいいか、未除染のあぜの部分をとるかなど、これからの土地利用の道筋と地区の再生を検討していけたら」と話す。

関根松塚地区の集会が行われた、ふくしま再生の会と東大のメンバーによる説明会。12日、福島県飯館村



農業復興に向けて

- 飯舘三酒

- 飯舘大吟醸
- 飯舘芋焼酎
- 飯舘濁酒



- 飯舘特産農産物

- 飯舘特産の肴(さかな)
- 伝統的な味付けを活かした調理法



- 海外展開

- Fukushima/Itateブランド
- 徹底した品質管理 **GLOBALG.A.P.**



復興の農業工学

- 上野英三郎博士
 - ハチ公の飼主
 - 東大農学部教授
 - 耕地整理法(1900)／耕地整理講義(1905)
- 農業工学(農業土木)
 - 食料生産の基盤整備
 - 不毛な大地→肥沃な農地
 - 農地造成／灌漑・排水
 - 農地除染
- 除染後の土地利用
 - 帰村後の農村計画
 - 地域創生／産業再生



活動の記録



生きる。ともに

東京大学
東日本大震災における
救援・復興支援活動レポート

福島復興農業工学会議（土壌汚染の農業工学的研究）

放射性物質で汚染された農村・農地を蘇らせるため、最新の ICT 技術を駆使して放射能汚染の実態を詳らかにしつつ、これまで蓄積された農業工学の学術と技術を活用して、誰もが実行可能な手作りの放射能除染技術と微量低減技術を考案・工夫し、地元やボランティアの人たちと一緒に実験・観測を行い、研究成果を広く社会に公表することを目的に活動しています。

部局名 : 農学生命科学研究科・農学部
代表者 : 久保成隆 教授
プロジェクトメンバー : 溝口 勝 教授、西村 拓 教授、飯田 俊彰 准教授、吉田修一郎 准教授、
関連機関・組織 : 認定 NPO 法人 ふくしま再生の会



How do we act
for the afflicted area
after Fukushima nuclear accident?
The respective trajectories of experts and sufferers

原発事故後、 いかに行動したか

専門家と被災者の軌跡

文部科学省原子力基礎基盤戦略研究イニシア
ティブ「原子力と地域住民のリスクコミュニケーションにおける人文・社会・医科学による学際的研究」
(研究代表者:中川恵一) 成果報告書

【謝辞】

- － 認定NPO法人ふくしま再生の会
- － 東京大学大学院農学生命科学研究科
 - ・ 放射性同位元素施設
 - ・ サークルまでい
 - ・ 東京大学「福島復興農業工学会議」
- － 東京大学 救援・復興支援室

総合討論への前振り

- 福島における農林業再生のための主要課題
 - 農村計画, スマート農業, 獣害対策
 - マーケット開拓, 風評被害の撲滅
 - 汚染土の減容化と処理(移動)
- 研究者の役割、国環研(福島支部)の役割
 - 現場に出て人の話を聴く
 - 前向きに・積極的に・本気で問題と向き合う
 - 継続的な環境計測
 - 風向-放射線量、雨量-濁水流出、動植物の汚染マップ
- 農林業の回復が被災地域の自然・経済・社会の復興、創生にどのように寄与するか？
 - 被災地域のみならず日本のためになる(いろんな意味で)
 - 福島の農林業の回復なくして日本はない